

若手職人が揃う少数精鋭—— 質高き仕事で確かな信頼を得る



株式会社 情野組

山形県米沢市大字川井 315-4

とび工事を中心に、土木・解体・大工・コンクリート・鋼構物工事を手掛ける『情野組』。個人事業として約11年の歩みを経て、令和元年に法人化を果たした。若手が揃う少数精鋭で信頼と実績を蓄積する同社を、本日は俳優の村野武範氏が訪問し、情野社長にお話を伺った。

代表取締役
情野 雄也



interviewer
村野 武範



——早速ですが、情野社長の歩みから伺います。建設業界一筋ですか。

はい。10代のころからニッカポッカに憧れていたのをきっかけに、とびの世界に飛び込んだんです。そんな動機で始めた仕事でしたが性に合っていたようで、従業員20名ほどの会社に入って修業を積みました。同世代は学校へ行ってしまったから、学がないからと負けたくないという一心で、必死に働き技術を身につけました。父にも、お前は学がないから一生肉体労働をやり続けるしかないと言われて悔しい思いをし、いつか見返してやると心に誓ったものです。父の一言でスイッチが入り、学がないからこそ職人としてしっかり技術を得ようと懸命になれたんでしょうね。父とは今では、一緒にお酒を飲む仲で、昔を懐かしく思います。

——負けん気がお強いんですね。だからこそ、この厳しい職人の世界で立派にやっていたらいいでしょう。独立されたのは、何歳の時で？

24歳の時に、個人事業主として独立を果たしたんです。当初は、独立以前に勤めていた会社の仕事を手伝う形でスタートし、人のつながりから仕事をいただけるようになりました。そうすると人手が必要になり、仲間も一人、また一人と増えていきましたね。24歳で周りか

ら「社長！」と呼ばれるようになって天狗になってしまい、また経営者としては未熟でしたが、仕事だけは真面目に取り組んできたので、ここまでやってこれたのだと思います。令和元年には法人化を遂げることもできました。

——現在は、主にどういった業務を？

とびがメインですが、とびと聞いて皆さんがイメージする建物の足場工事ではなく、高速道路建設に伴う足場工事に携わっています。地図に残る仕事に関わっていることに、やり甲斐を感じます。山形県内に留まらず、福島県の現場からも要請が入るようになり、10人の少数精鋭と5名の協力業者で稼働しています。この業界は若手が不足していますが、当社には社員のつながり、求人でも若手が入ってきました、みな私より若く、二十歳の子も頑張ってくれています。

——この辺りでとびの会社と言えば、『情野組』さんが信頼を獲得している証拠でしょうね。

この業界は、信頼がすべてです。仕事をさせていただいているという考え方で、謙虚に、堅実に仕事を積み重ねること以上に大切なことはありません。そして、ご依頼下さる方の信頼に応える品質で、仕事を確実に納めてくれる従業員がいるからこそ、また次の依頼につながる。

私は、肩書こそ社長ですが、私一人では何もできず、ただただお客様と従業員に感謝するばかりです。

——その姿勢も、社長が信頼を得る理由、良き人材に恵まれている理由だと思います。今後については、いかがですか。

とび工事や土木工事、解体工事など現在手掛けている仕事で企業としての基盤を盤石にし、その後は異業種への参入も考えています。そのためにも、揺るぎない基盤を構築し、企業として高みを目指し続けたいですね。

(2020年3月取材)



「周りから、『社長』ではなく『雄也さん』と呼ばれているという情野社長。みなさんにとっては兄貴分のような存在でいいのだそう。また、協力業者の方々から『社長』と呼ばれることに対して、『申し訳なく思う』と社長。謙虚な人柄が、窺い知れますね」
村野 武範・談